

「葛飾区少年の主張大会」が 開催されました

平成28年11月19日、かつしかシンフォニーホールアイスホールにおいて、応募総数499人の中から選ばれた小学生19人・中学生6人、計25人が、それぞれの主張を発表しました。結果は次のとおりです。

■小学生の部

最優秀賞

成田 芽生(なりた めい・金町小6年)
「認めることができた」
飯沼 凜(いぬま りん・葛飾小6年)
「気持ちを伝える大切さ」

優秀賞

吉野 夏音(よしののかん・道土小5年)
「私にここにいる奇跡」
宮本 夏帆(みやもと なつほ・上小松小6年)
「障がい者が暮らしやすい世の中に」
千葉 いくみ(ちば いくみ・鎌倉小6年)
「ソーラーパネル」
三沢 博香(みさわ ひろか・住吉小6年)
「オリンピックのチカラ」
中里 優成(なかがと ゆうせい・飯塚小6年)
「答えは簡単だった」

入選

森川 愛央衣(もりかわ あおい・川端小6年)
竹田 圭佑(たけだ けいすけ・木根川小6年)
小野塚 唯斗(おのづか ゆいと・よつぎ小6年)
佐藤 遼生(さとう りょうせい・西亀小6年)
横田 和花(よこた わか・亀青小5年)
慎 晏奈(しん あんな・小松南小6年)
小島 拓実(こじま たくみ・南奥戸小6年)
小田切 渚(おたぎり なぎさ・青戸小6年)
秀間 青空(ひでま そら・末広小6年)
中野 実咲(なかの みさき・原田小6年)
井戸根 美花(いどね みか・上千葉小6年)
高橋 美湖(たかはし みこ・綾南小6年)

■中学生の部

最優秀賞

大町 彩菜(おまち あやな・亀有中3年)
「言葉で伝えるということ」

優秀賞

山口 隼平(やまぐち じゅんぺい・四ツ木中2年)
「地域から受け継ぐ」
細谷 愛笑(ほそや まなみ・葛美中3年)
「大統領のスピーチを聴いて」
入選

小松崎 木花(こまつぎき こはな・一之谷中1年)
赤羽 七海(あかはね ななみ・東金町中2年)
佐藤 あみ(さとう あみ・高砂中2年)
(敬称略・同一賞内の順番は発表順)

地域教育課 ☎(5654)8482

中学生の部・最優秀賞

言葉で伝えるということ

亀有中学校3年 大町 彩菜

今年、人生最大のケンカをしました。相手は、テニス部でペアを組んでいる友人。彼女は趣味も合うし、何でも気楽に話せる存在です。しかし、あの試合のときは違いました。思ったことを言えませんでした。お互いの気持ちがわからず、関係もとれず、不完全燃焼というべき敗戦でした。大会後の反省、何を話したのか、あまり覚えていません。ただ彼女が泣きながら発した言葉、

「思ったことは、言ってくれなきゃわからないよ!」
それだけがズシンと心に残りました。帰り道、一人泣きながらとても後悔しました。なぜ、思ったことを言わなかったのだろう。本心を伝えようとしてもしなかったのだろう。うまく伝わらず、嫌な思いをさせてしまっ、言っても無駄なのではないか、そんな心配ばかりして、本心と言わなかった、自分が自分で情けない、その思いでした。その後は二人で話し、思ったことや気づいたことは、遠慮せずお互いに言おうと決めました。私は、本心を言うことで、より信頼して、一緒に戦っていきけるようになったと感じました。

しかし、そんな日々の中でも、ふと思ふことがあります。相手に本心を伝えると言っても、自分の本当の気持ちなど、果たして相手に伝えられるものなのか。正しく受けとられるものなのだろうか。それから、「伝える」とは一体何なのか、どうしたら本当に、「伝わる」のか、考えるようになりました。

そんな私の疑問に対し、ヒントをくれる人がいました。四月十四日におきた熊本地震。ご自身も熊本出身のNHKアナウンサー、武田さんはその夜、番組の最後にこうおっしゃいました。
「被災地の皆さん、そして私と同じように故郷の人たちを思う全国の皆さん、不安だとは思いますが、力を合わせて、この夜を、乗り切りましょう。この災害を、乗り越えましょう。」

普段と変わらぬ落ち着いた口調。しかし、その言葉は力強く感じました。後日、新聞で、番組最後の言葉は原稿にはなく、武田さん自身の判断で話されたものだったと知りました。そして、被災した方々はそれを聞き、とても励まされた

とも知りました。公共の生放送という制約の中で、自分の思いを自分自身の言葉で発するのは、私達が日常で言葉が発するよりも、はるかに大変だったと思います。数行の飾らない言葉の奥に、自分の不安、被災者への感じたり、故郷への愛など、たくさん思いを感じました。自分の考えや思いをおしつけることなく、できるだけ多くの人に寄り添おうとする。そんな故郷を思う気持ちがさせる、わずかな表情や口調、声色の変化が、被災者の方々の心を動かしたのだと思います。画面のむこうにいる私達に、伝わったのだと思います。

本当に自分の心を「伝える」には、自分の思いを相手に届けたいという気持ちと、相手に寄り添い、伝え方を考えることが必要です。
「思ったことは、言ってくれなきゃわからないよ!」あの日の、彼女の言葉がよみがえります。「伝える」というのは、とても怖いことです。しかし、私は本心を伝えようとすることをあきらめたくはない。自分の思いや考えは言葉にして伝えなければ、何も得られないからです。

私は将来、報道にたずさわっていきたくて思っています。今はそんな、未来に向かって進んでいく途中です。これから私は多くの人と出会い、言葉を交わすことでしょう。その中で、自分の思いを届け、誰かの思いを受け取りながら、大人になっていきたいと思います。

